

No20 ADHDばかりでなく、どの子にも効果的な授業力

— 社会性の基礎を身に付けるには(2)—

前月号では、小さな成功体験を地道に繰り返し行うことで、社会性を身に付けていくことを述べましたが、今月号では、その具体的な指導法についてご紹介します。

発達障害やその特徴をもつ児童生徒への基本的なかかわりとして最低限言えることは、怒鳴らない、皮肉を言わない、体を抑えない(危険性有の時は別)ことです。理解されにくい行動特徴をもつために、注意や叱責の対象になることが多く、当該児童生徒の心は追い詰められやすいのです。

心が追い詰められると、心を守るメカニズムが働き、抑圧・逃避・反抗・攻撃の状況を招きがちです。心を追い詰めることなく、社会性を身に付けていく方法・授業力を工夫することが大切です。



身に付けさせたいスキル例1

◆ チャイムが鳴ったら席に着いて学習を始めるスキル

教師がチャイムと同時に授業を始めます。全員そろって挨拶をしてから授業を始めるというこれまでの常識を覆す弾力性が必要です。授業は説明から入らないで、フラッシュカードを見せたり、絵地図をぬったり、ノートを写すなどの『作業』から入ってみます。子ども達は状況を見て集まってきます。静かに授業が開始される訳です。挨拶が必要なら集まった後に出来ます。着席がなかなか難しい子には、その子の興味を引きつけるような『作業』が前もって分かり易く提示されると効果もでてくると思います。

身に付けさせたいスキル例2

◆ 見通しをもって学習をすすめるスキル

「見通し」とは、数字を用いることによって、「この先どこまで作業をすればよいか」など、ゴールや基準を子ども自身が分かることです。例えば、「あと5分で終わりにします。」「10数えたら始めます。」「今から先生は、3つの大切なことを言います。」など、数字を使うことで、明確に見通しがつきます。このことによって、「いつまでやったら終わるのだろう」という不安による「そわそわ感」の解消や、「3つだけだから大切なことを聞いていよう」などの意欲付けが図られます。

<指導のポイント>

子どもの心を追い詰めることなく良い方向に変えていく言葉には、子どもを癒す言葉、楽しくさせる言葉、適度に緊張させる言葉、行動の価値基準を伝える言葉・・・などが有効です。



身に付けさせたいスキル例3

◆ 相手の意見を聞いて発言するスキル

エクササイズ — 「イイかな・ドウかな」—

- ① 2人組になる。
- ② 1つのテーマ(例えば、先生にプレゼントしたいドラえもんの道具)について出来るだけ多くの意見を出す。
- ③ その後、お互いの意見を「～はイイけど、～はドウかな」あるいは、「～はイイ」と考えを言う。
- ④ 2人で「イイ」と評価した意見を採用する。

◇ 初めは相性のよい子ども同士をペアにすると良い。チームの人数を増やすなどのアレンジが可能。